



石川総合理解講座

いしかわ

大百科



～石川県民大学校放送利用講座～



まなびの心
かがやく人生

番組へのご意見は…

- 石川県教育委員会事務局生涯学習課
☎ (076)225-1836
- テレビ金沢 報道制作局制作部
☎ (076)240-3344



放送予定表

2024年 後期 10月～3月

手話通訳つき放送

テレビ金沢 土曜または祝日 午前10:55～11:25

提供/石川県教育委員会 企画・制作/テレビ金沢

シリーズ・時代に挑んだ偉人たち (全8回)

長い歴史の中で数多くの発見や大きな進化を遂げるなど、後世に語り継がれる功績を遺した偉人たちは、時に挫折を味わい、私たちが想像もできないような苦難を乗り越えて成功を収めてきました。目標に立ち向かった精神力や発想力。偉人たちが持ち続けた信念を感じながら石川県民が受け継いできた「ふるさとの誇り」を学びます。(このシリーズは9月から続いています)

第3回 10月14日(月・祝)放送 ポンプ革命 ～畠山一清～

能登の守護大名・畠山氏の血筋を引く畠山一清(1881～1971)は東京帝国大学の恩師・井口在屋の理論をもとに「うずまきポンプ」を発明しました。それまでのポンプの揚程を大きく上回るもので、現在のポンプの基礎となっています。関東大震災でもわずか1日半で水道を復旧させるなど、近代の暮らしに大きく貢献しました。

第4回 11月4日(月・祝)放送 読書のススメ ～中田邦造～

1931年(昭和6)から1940年(昭和15)にかけて第4代石川県立図書館長を歴任した中田邦造(1897～1956)は京都帝国大学時代に哲学者・西田幾多郎に学びました。読書の機会が少なかった農村部の青少年に読書学級や青少年文庫を作り、児童たちの文化の育成に尽力。戦争が激化する中、40万冊の図書を疎開させています。

第5回 1月13日(月・祝)放送 不屈の水利技師 ～八田與一～

水利技師の八田與一(1886～1942)は日本の統治時代の台湾で不毛の大地と言われた嘉南平原に当時で東洋一の規模となる「烏山島ダム」と総延長16000kmにおよぶ旧排水路を完成させ、台湾一の穀倉地帯へとつなげました。地震が多かった台湾の地で「セミハイドロリックフィル工法」を採用したり、現地に家族も住むことが出来る街を作るなど、新たな事業スタイルを取り入れています。

第6回 2月11日(火・祝)放送 無限大の色絵 ～三代・徳田八十吉～

「彩釉磁器」による重要無形文化財保持者いわゆる人間国宝の三代・徳田八十吉(1933～2009)は、初代・二代に師事したものの自身が目指す新たな色絵使いに行き詰まり山籠もりをします。挫折の中から生まれたのが、「色は無限にある」という発想で、顔料の組み合わせによる色彩を調整した鮮やかな「彩釉」の世界を創りだしました。

第7回 2月24日(月・祝)放送 女子教育の礎 ～加藤広吉・せむ～

明治時代、石川県内の女子の教育機関は教員養成を目的とした女子師範学校しかありませんでした。加藤せむ(1869～1956)は女子教育の必要性を唱えてともに尽力した夫・広吉の意志を引き継ぎ、金城女学校(現在の遊学館高校)を設立。一般女子教育のための女学校の発展に大きな影響を与えています。

第8回 3月20日(木・祝)放送 七ヶ用水の父 ～枝権兵衛～

石川県最大の手取川は旧鶴来町を要として扇状地を形成し、水田を潤しています。手取川ダムが完成するまでは水かさが増すと洪水となり、日照りが続くと水不足となるなど、流域の庶民らによって度々「水争い」が起こるほどでした。こうした人々の苦勞を解消するために立ち上がったのが枝権兵衛(1809～1880)です。権兵衛はトンネルを掘って手取川の水を取り入れることに成功。今も用水の恩恵が加賀平野を潤しています。

(都合により放送順序・放送時間が変わることもあります。)

県民大学校については石川県立生涯学習センターまで、お問い合わせ下さい。
〒920-0935 金沢市石引4丁目17番1号 石川県本多の森庁舎2階
電話 (076)223-9572 E-mail: shakyo-k@pref.ishikawa.lg.jp

大百科セレクション・再放送

これまで放送した『いしかわ大百科』で、視聴者から好評をいただいた回を再放送します。



11月23日(土・祝)放送 旅をする蝶が舞う ～能登最高峰・宝達山～

石川県の中部にある宝達山(標高637m)は能登半島の最高峰で、江戸時代に金山があったことからその名がついたと言われています。9月には旅をする蝶、アサギマダラが飛来することでも知られ、地元の小学校ではアサギマダラを通じて鹿児島県喜界島の小学校との交流も行ってきました。(2021年10月10日放送)

12月21日(土)放送 祈りを込めて ～能登の蓬萊～

神棚の下に垂らす能登の正月の縁起物「蓬萊」。元々は米や小豆・銀杏など幾何学模様に乗った農作物のお供えでしたが、人々の願いの多様化に伴い現在は干支や七福神の切り絵、「福寿」「大漁」などの文字といった祈りのこもった手仕事は今も連綿と受け継がれています。(2022年1月23日放送)